

8 レタスのハモグリバエを抑えよう!

ねらいと成果

平成9年の春、レタスに「エカキ」が多数出ている、との問い合わせが県下で相次いだ。「ナモグリバエ」と同定された本種の突発的な多発生は、原因がわからないままその後も毎年続いている。

そもそもレタスのハモグリバエ類はマイナーな害虫なので登録農薬がない。しかし現場からは即実践可能な対策が求められており、レタスに適用のある殺虫剤の応用を試みた。その結果、ベストガード水溶剤の育苗期灌注とモスピラン粒剤の定植時株元散布の効果が高かったため、組み合わせると定植から約2カ月間被害を抑える見込みが得られた。

内容

被害が最も多く見られる5月上旬収穫の作型に合わせ、品種「ステディ」を1月2日に200穴セルトレイ播種し2月23日に定植した。薬剤処理を①育苗中の灌注2回②定植時セルトレイ上での粒剤散布③液剤の本田散布、に分けて防除効果を比較した(表)。その結果、灌注処理の効果は速効的かつ顕著であり、

粒剤は遅効的だが処理2カ月後でも優れた効果がみられた。それに比べ液剤の本田散布は効果が劣った。

普及上の注意事項

本試験では灌注処理にベストガード水溶液の200倍希釈液を使用しているが、実際にはレタスで定められている2000倍液を使用すること。そのかわり灌注量と回数(3回まで)を増やすとよい。粒剤の効果が切れ始める定植後2カ月頃からは、様子を見ながら液剤の本田散布で対応しよう。

八瀬 順也(淡路農技・農業部)

表 薬剤処理方法と防除効果

薬剤	処理方法	処理時期	防除値1 3/24	防除値2 4/13
① ベストガード水200倍	灌注500ml/トイ	2/12、2/23	94.7	69.1
② モスピラン粒0.25/株	トイ株元散布	2/23	31.6	90.2
③ アドマイヤ-FW4000倍	ほ場散布	3/24	-	64.8
③ アドマイヤ-FW4000倍	同上	同上	-	77.2
③ モスピラン水4000倍	同上	同上	-	69.9

注) 防除値は対無処理評価